



今回は、2年3組2班による NPO 法人仕事工房ポポロフィールドワークの報告します。

◇NPO法人仕事工房ポポロを訪問し、子供の学習支援について学びました！

日時：2018年8月3日(金)10:00～12:00

訪問先：NPO 法人仕事工房ポポロ(岐阜市八代)

内容：子供の学習支援について

参加者：岩田寛和 林蒼太 水谷蒼空 小原大弥 辻悠花 三品はるむ

◇仕事工房ポポロとは？ ～若者が再び輝ける支援活動～

仕事工房ポポロ（以下、ポポロ）とは、岐阜市で若者の居場所づくりや役割づくり（就労支援）、仕事づくり（創業支援）などに取り組んでいる NPO です。フリースペースや就労支援、シングルマザーや引きこもる家族を持つ人々の支援を通じて、若者に役割や仕事を与える機会をつくっています。

ポポロは2007年6月に活動を開始し、ニート、引きこもりなど生き方・働き方・人間関係に悩み社会への出口を模索する若者、様々な事情によって働く場所が狭められている子育て中の母親や高齢者などのために自立・就労・仕事に関する事業を行っています。そのために様々な分野



の人々、地域との交流を進め、誰もが共に生き生きと幸せに生きていける社会づくりに達することを目的として活動しています。

今回は、教育支援活動の統括・前尾留美子様と、ボランティアとして参加されている岐阜大学の学生2名にお話を伺いました。



◇ 私たちの感想 ～教育格差をめぐる環境から考える私たちができること

SGH の活動を通して、私たちのように学校に行って授業を受けられることが当たり前ではないということが分かりました。また、満足に教育を受けられない子供たちの背景には、シングルマザーまたはシングルファーザーの家庭であったり、経済的困難を抱えていたりするなど様々な問題があることが分かりました。

しかし、こういった状況を支援する政策が満足に機能しないことから、問題が解決しないまま現在に至ります。そこでフィールドワークの現場で見た無料の教育支援塾はとても良い方法だと思いました。だから私たちの現在行っている中学校への授業アシスタントをさらに広めていけるといいと思いました。



SDGsのロゴより

今回は、2年3組3班による、フィールドワークの報告します。

◇ てらこや文殊堂を訪問し、日本の教育格差について学びました！

日 時： 2018年7月27日(金)17:00～18:30

訪問先： てらこや文殊堂 佐藤隆一さん (関市内)

内 容： 日本の教育格差について

参加者： 小川彩葉 松岡乃愛 山田彩世 兼松佑真 梅田智也 深見彩人

◇ てらこや文殊堂を訪れて

この写真は「てらこや文殊堂」の授業風景です。私たちも実際に足を運び、「特定非営利活動法人支援隊」理事長の佐藤隆一さんからお話を伺いました。「てらこや文殊堂」は無料塾の一つです。関市内のひとり親家庭で学習塾に行けない小中学生を対象に学習のサポートをしています。週一回18時～20時半に活動するほか、お腹を空かせて来る子も多いため、補食の提供も行っています。また、夏休みには宿題の手助けをする教室や、博物館での屋外活動の実施などの子供たちとのふれあいを通して、居場所づくりにも取り組んでいます。そこで、私たちにできることは、いらなくなった本やDVD・教科書などの寄付、無料塾のボランティアへの参加、教育格差の現状を多くの人に知ってもらうことだと考えました。



◇ 私たちの感想

～すべての子供たちに学習の機会を～

私たちは日本の教育格差について調べました。日本には家庭の貧困などによって、十分な教育が受けられない子供たちが多くいます。私たちが訪れた、てらこや文殊堂は子供たちに学習できる場所を提供し、支援を行っていました。もっと多くの人々の協力を得、活動を広げていくことが必要であると感じました。私たちは、こうした子供たちの現状を知ってもらうことから始めたいと思っています。



SDGsのロゴより

今回は、2年3組4班によるLGBTQに関するフィールドワークの報告します。

◇ 私たちの班は、LGBTQに関する多様なものの見方について学びました。

日時： 2018年7月30日(月)9:00~11:00(①)
2018年8月21日15:00~16:30(①)
2018年12月26日(水)13:00~16:30(②)

訪問先： ①関市役所協働課 ②大垣北高校
内容： ①関市で行われているLGBTについての活動
②SGHでの研究を他の高校と交流する

参加者： 後藤江 石原一帆 木村優花 津田幸輝 野村唯斗 林憂南

◇ 私たちにできること

私たちは昨年12月に、研究の成果を大垣北高校で発表しました。また、発表後にそれぞれのグループに分かれて、各グループに一人の講師を招いて、現代社会の問題を解決するためにディベートという形式の討論を行いました。上記の活動以外にも、当事者の方に直接話を聞く機会がありました。そのような活動の中で、私たちに心に一番残っている言葉は「性はグラデーション」というものです。このような考えを大切にしながら、自分たちにも何かできないかと考え、市役所と協力して、私たちの次の世代に多様性について考えてもらうきっかけになるよう、紙芝居を作成することにしました。

私たちは紙芝居のストーリーを考えました。一つ目の案は当事者の方から指摘をいただき、紙芝居をつくることの責任や小学生に伝わりやすい方法を考え直しました。その結果、二つ目の案は市役所の方やイラストを作ってください大学の方々にお褒めの言葉をいただきました。



◇ 私たちの感想

フィールドワークでは、関市が、男女表記を撤去した「だれでもトイレ」を設置したことに対して性的少数者を含めた多数の人から批判が集まっていることを伺いました。すべての人が納得できるような活動をするための難苦を痛感すると同時に、一人ひとりの意見に耳を傾けることの重要性を再確認しました。



SDGsのロゴより

今回は、2年3組5班による、フィールドワークの報告します。

◇ 中濃保育園を訪問し、家庭における男女の役割について学びました！

日時： 2018年8月17日

訪問先： 中濃保育園

内容： 園児の保護者と先生方にアンケートに協力してもらう

参加者： 山口晃平 長尾壮真 古田毅 後藤佳乃 片岡東子

◇家庭における役割についてのアンケート実施

(中濃保育園実施アンケート結果)

- Q1. どちらが家事を率先して行っていると思うか。
A1. 妻…妻8 夫0 (妻・夫1) 夫…妻8 夫1
- Q2. 自分の家庭への貢献は十分だと思うか。
A2. 妻…はい4 いいえ5 夫…はい3 いいえ6
- Q3. 配偶者の家庭への貢献は十分だと思うか。
A3. 妻…はい6 いいえ3 夫…はい8 いいえ1



◇アンケートでの意見

妻…もう少しゆとりをもちながら家事育児を出来るようになりたい。

夫…出来る家事はやろうとしたが、妻にやらなくていいとイライラされるので家事をほとんどしていない。

夫…仕事だけでなく家事もやってあげたいと思うがなかなか出来ていない。



SDGsのロゴより

◇私たちの提案

アンケートから妻、夫ともに自分の家庭への貢献を不十分と思う人が多い一方で、配偶者の貢献を評価していた。そのため夫婦間での意識の齟齬を失くしていくためにも家事や育児について話し合い、役割分担を決めるなど、どちらかに負担がかからないようにすることで、家庭の男女平等を目指していくことを勧めたい。

今回は、2年3組による岐阜県立森林文化アカデミーフィールドワークの報告をします。

◇岐阜県立森林文化アカデミーを訪問し、海と森林の関係について学びました！

日 時： 2018年8月7日(火)10:00～13:00

訪問先： 岐阜県立森林文化アカデミー(美濃市)

内 容： 海と森林の関係について

参加者： 小川智司、日置翔遥、外園優菜、山田弥侑、澤田真夕

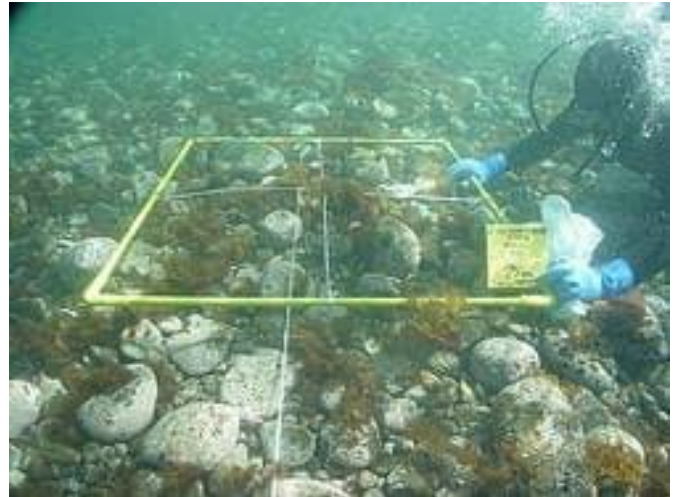
◇海には鉄が必要だった！

鉄分は海にとって重要な物質です。

鉄分が十分に供給されることで、海藻の成長が促され、海水中のCO₂が減少し、海藻が海洋生物のすみかとなることで、漁場ができます。

実は、山は海に鉄分を提供しています。しかしながら、海が必要としている量には至りません。そこで、人為的に鉄を海に供給する取り組みとして北海道沿岸に鉄スラグを埋め込む活動があります。これにより、人間にとっても海にとっても有益な環境づくりが期待できます。鉄くずが世界を救うかもしれないのです。

(右写真 <https://blog.goo.ne.jp/>より)



◇私たちの感想

このフィールドワークを通して、私たちは海とは一見関係がないように思われる森林が、海を守ることにつながることを知り、普段の生活でも異なる視点でものごとを考える大切さを学びました。

私たちは海のない岐阜県に住んでいますが、ごみを減らすなど、小さな取り組みが海の生態系を守ることに繋がるということも学びました。しかし、私たちの小さな悪行が積もれば、海の生態系を壊すことに繋がってしまいます。

また、私たちは岐阜県立森林文化アカデミーのほかにも、井田徹司さんからマイクロプラスチックの問題についてのお話もお聞きすることができました。普段はできない経験をさせて頂けてよかったです。

今後はそれらのことを頭に入れて、より環境問題に目を向けていきたいと考えています。



SDGsのロゴより